

層雲峡ビジターセンター



飛沫をあげて落ちる紅葉滝（紅葉谷）

平野部では夏日も多くなり、層雲峡でも木々の葉が萌黄色から若葉色へと日に日に濃くなってゆく時季になりました。層雲峡は大雪山の山麓、標高650メートルくらいの位置にあり、谷あいの地形でもあるため、平野部とは季節感がすこし異なります。街なかで暑いなど感じたときに涼を求めて散策するにはいまがちょうどいい頃かもしれません。

そんなときにおすすめなのが紅葉谷散策路です。入口の駐車場に車を止め、ゆっくり歩いて終点の紅葉滝まで30分ほどの散策になります。散策路と呼ばれていますが、「大雪山グレード1」の登山道です。入口から終点まで

高度差が130メートルくらいあるので、歩くときは運動靴よりもハイキングシューズをお勧めします。また、稀にヒグマの目撃情報もあります。鈴やホイッスルなどの鳴り物を携行してください。ビジターセンターには『紅葉谷さんぽガイドブック』も用意しておりますのでご利用ください。

写真の紅葉滝は、大雪山の中央火口「お鉢平」から流れ出る赤石川が落差10メートルほどの二段の滝となって落ちているものです。雪解け水を集めて一気に流れ落ちるこの時季は、一年でもいちばん豪快な印象を受けます。赤石川はアイヌ語の「suma=石・hure=赤くなる・pet=川」の意識だと考えられます。

【 新スタッフ紹介 】

はじめまして、4月から層雲峡ビジターセンターのスタッフとなりました高橋あすかと申します。

出身は上川町の隣町・留辺蘂町（現：北見市）で、小学生の頃には学年行事で黒岳登山をした思い出があります。

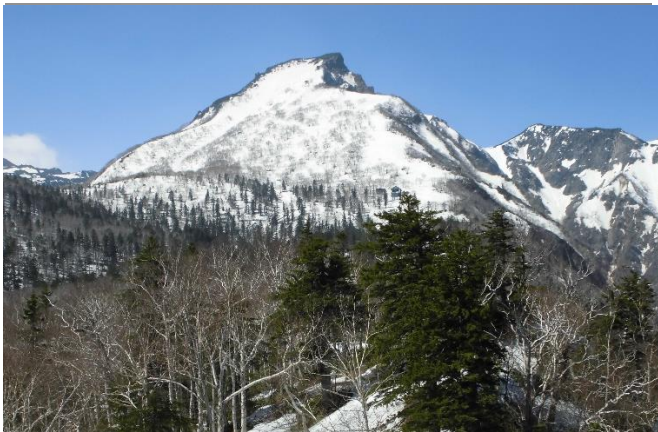
自然が好きで、“山の近くで暮らしたい”と思い続けてきた私にとって、黒岳の麓で働けることは最高の幸せです。

層雲峡を訪れる皆様に大雪山国立公園の素晴らしさをしっかりお伝えできるよう日々、精進してまいります。

皆様、ぜひ層雲峡ビジターセンターへお越しください！



（追記：木彫りが好きで、今は特に、熊の木彫り（鮭をくわえていないもの）を探しています。すてきな木彫りグマの目撃情報もお待ちしています！）



〈 五合目黒岳駅からみた黒岳 2022. 5. 18 〉



〈 エゾスジグロシロチョウ 2022. 5. 26 〉

編集後記

冬枯れだった山の斜面に緑がひろがり、平野部では田んぼに水が入って稲が植えられ、文字どおりグリーンシーズンが始まりました。山好きの人はそろそろ低山から足慣らしを始めている頃ではないでしょうか。

さて、層雲峡ビジターセンターは冬の間には館内の改装工事を行い、照明がすべてLEDに変わって、いままではとほすこし印象が変わったように感じられるかもしれません。照明のLED化によって消費電力が減り、二酸化炭素の排出量削減につながるということです。

6月からは開館時間が朝8時から夕方5時30分までになり、10月まで閉館日なしで開館しておりますので、層雲峡へお越しの際はぜひ足を運んでください。

層雲峡ビジターセンター

電話 01658-9-4400

ウェブサイト <http://sounkyovc.net>

〒078-1701 北海道上川郡上川町字層雲峡